

第1回大宮公園周辺道路問題検討委員会

概要

- 1 会議名： 第1回 大宮公園周辺道路問題検討委員会
- 2 日時： 令和7年12月25日（木） 10:00～12:00
- 3 場所： 埼玉県庁 都市整備部会議室（Web 併用）
- 4 出席者： 別紙のとおり

議事要旨

・ハード対策

- 大宮公園周辺の道路ネットワークの整備によるアクセス向上
- 大宮公園周辺の道路の局所的な整備による円滑化
- 大宮公園内外の連携した駐車場整備
- 広域幹線道路ネットワーク及び鉄道ネットワークの整備によるアクセス向上
- 歩行者導線の確保

・ソフト対策

- 新たなモビリティの導入の可能性
- 公共交通の利便性向上
- 大宮公園内外の駐車場の適正な利用と案内表示等の充実による円滑な誘導
- 公共交通への誘導による交通整序策
- 大宮公園利用者のピークの分散

<主な意見等>

(1) 質疑応答

- ・ モビリティの議論は、いつの時点を想定すれば良いのか。
⇒大宮スーパー・ボールパーク（以下大宮 SBP）の検討次第ではあるが、整備まで10年以上は要することを想定している。
⇒モビリティは日々進化しており、10年後だと今よりも更に新しいモビリティが登場している可能性があることに留意が必要である。
- ・ パーソントリップ調査の代表交通手段分担率は平常時の値であるが、イベント時の分担率は肌感的にどの程度の分担率と考えられるか。
⇒野球場の収容人数は2万人弱、サッカー場の収容人数は1万6千人弱である。野球場とサッカー場は近接しており、過去にホームランボールがサッカー場へ入ったことがあり、同時開催は行っていない。
⇒サッカー場へは大宮駅から徒歩での来訪が多く、野球場へは鉄道駅からの来訪もあるが車での来訪が多い印象である。夏の高校野球予選では、駐車場に車両が入れず産業道路が渋滞している様子が見られた。
- ・ 大宮 SBP の整備では、座席数は現状と同じ程度なのか。
⇒野球場は同程度を考えているが、サッカー場は現状よりも多く確保される可能性がある。どちらも検討中の段階である。
- ・ 駐車場が満車であれば駐車マスを増やせば良いが、敷地の制約などで難しいとも思う。車で来訪しないように徹底した情報発信を行うことも重要。大宮駅から大宮公園まで徒歩で20分程度要するが、たった20分歩くだけで来訪できることをキャッチフレーズとして案内し、20分歩くことに抵抗がない人をターゲットに徒

歩での来訪を促すことも考えられる。

- ・ オーバーツーリズム対策で実施されているように、イベント時の駐車場料金を上げたり、事前予約制を導入して車を抑制することも考えられる。情報提供を継続して行うことが重要。
- ・ 本委員会の役割について、定量的な検討はどこまで行う予定なのか。

⇒現時点で、大宮 SBP 整備の具体的な内容は決まっていないが、どのような手法でどこまで検討するべきかを委員のみなさんのご助言も踏まえて考えていきたい。

⇒2021 年オリンピックや 2027 年国際園芸博覧会（花博）などで定量的な検討をしているが、チケットの販売数など細かな内容が決定しないと施設周辺のミクロな検証が難しい場合もある。大宮 SBP の詳細が現時点で決まっていなければ、広い視点での検討になると認識している。

- ・ 車から公共交通へ転換させる場合、公共交通のキャパシティにも限界がある点に留意が必要である。鉄道利用を促す場合は施設規模が小さい大宮駅の東武線ホームに人が溢れ危険が高まる恐れがある。また JR 大宮駅は、施設規模は大きいものの現状で既に人が溢れており、イベント時に更に混雑することが想定される。以上の状況を踏まえて、大宮駅 GCS 化構想との時期的整合性は非常に重要だと考えている。また、地下鉄 7 号線の延伸を見据えて南北線を経由したアクセスを想定するなど、周辺のプロジェクを踏まえた広域的な検討が重要である。

- ・ 都市計画道路の整備状況について、一部路線で 4 車線化供用されているにも関わらず「未整備」と表示されている道路があるが、なぜ未整備と表示されているのか。整備状況だけではなく、車線数が分かるが良い。

⇒歩道幅員が不足している箇所は、車道が整備されていても未整備と表示している。道路の整備状況等は、県に情報提供をしつつ、連携してわかりやすい資料作りをしたい。

- ・ 試合のある日・ない日で来訪者の属性が異なることに留意が必要。試合のない日は家族連れが多く車での来訪も多いが、試合時には若者が多く車での来訪が少なく徒歩が多い可能性がある。
- ・ 時間帯で分散させる視点も重要である。試合終了に合わせてイベントを開き、一定の客数が会場へ残ることで分散が図れる可能性がある。

⇒早めに来場してもらったり、試合終了後もしばらく滞在してもらうなど、運営の仕方が重要である。大宮 SBP の検討に伴い施設が分散するため、空いたスペースに賑わいの空間の設置など、工夫の余地がある。同時開催の対応も視野に入れて検討したい。

- ・ 自動運転によるシャトルバスの運行やシェアリングモビリティの普及なども検討できると良い。また、空飛ぶクルマが普及した際は芝川上空の運行が期待できる。空飛ぶクルマは、市街地上空を運行させるにはリスクが伴うが、河川上だとリスクが少ない。

- ・ 第二公園の駐車場は 171 台あり、多目的広場の駐車場機能にすると 1,580 台確保している状況である。駐車場の車をスムーズに走行できるように改修を進めているほか、駐車場へのアクセス道路と産業道路との交差点改良も目指しており、少しでも交通安全に寄与できるように努めたい。

⇒駐車場へのアクセス道路と産業道路との交差点改良は、今後協議して内容を詰めていきたい。（さいたま市）

- ・ 直轄国道の沿道に大規模小売店が整備される場合、交通アセスメントを実施している。大宮 SBP も、どの程度の交通需要が見込まれるか想定したうえで検証すべき。さいたま市は、道路整備など様々な取り組みを検討されているが、必要に応じて施策の優先順位を変更することも考えられる。また、店舗の場合は距離が離れた駐車場は使われにくく、店舗に近い駐車場が混雑する。大宮 SBP でも同様に、駐車場が効率的に利用される工夫も必要である。

- ・ 駐車場へ右折で入庫する場合は渋滞の原因になるので、イベント時は右折入庫を規制することも考えられる。また、大宮駅だけではなく周辺の鉄道駅からシャトルバスを運行させ利用分散を図ることも有効である。行政と民間バス事業者が連携し、イベント時に運行できると良い。なお、バスは無料ではなく、有料で運行すべき。

- ・ 来訪時間帯の分散よりも、帰宅時間帯の分散が難しい。試合終了後にアフターイベントを開催するなどの工夫が必要である。今後サッカーと野球の同時開催を見込む場合であっても、開催時間を分散させるなどの工夫は事前に調整すべき。
 - ・ 周辺プロジェクトと一体的に検討できればよいが、実際は時間が非常にかかると想定される。大宮 SBP のきっかけは民間からの提案なのか。発意者は、県・民間のどちらになるのか。道路行政だけでは解決できない課題も多く、民間の協力も必要である。
- ⇒野球場は、アマチュア試合のみではなくプロ野球の試合のオファーがあり、規模拡大が求められているが、大宮 SBP 構想は県の発意である。
- ⇒プロスポーツを開催したい声があるということは、大宮にポテンシャルがあると捉えられているのではないか。大宮のポテンシャルを活かせる議論ができると良い。
- ・ さいたま市としては、都市計画道路の整備は引き続き進めていくが、用地買収を伴うため時間を要する。短期的な対策も含めて議論できるとありがたい。
 - ・ 花博でも交通対策が検討され、周辺の4つの鉄道駅からシャトルバスを運行させ入場時間の分散もしているものの、抜本的な解決には至っていない。そこで、ウォークアブル事業を活用して歩きたくなる仕掛けを検討している。大宮駅から大宮公園までは、氷川参道もあることから歩きたくなるような仕掛けを検討できると良い。
 - ・ 大宮公園周辺には4つの鉄道駅があり、ほかの大規模な公園と比較して対策の検討がしやすいのではないか。イベント時の対策は、花火大会なども参考になる。浴衣を着用している女性は自転車に乗れないため、シェアリングの電動キックボードで移動している様子も見られるようだ。
 - ・ 大宮公園周辺の既存の駐車場も有効活用できると良い。大宮公園から見て遠方にある駐車場はシェアリングモビリティとも連携して利用促進が図れると良い。
 - ・ シャトルバスは有効な手段であり重要である。ただし、大宮駅の駅前広場は既に路線バス等の乗降所で飽和状態であり、競輪場へのシャトルバスも大宮駅西口から離れた場所に乗り場があるようだ。大宮駅のみならず、さいたま新都心駅の駅前広場（けやき広場）が活用できないか。広域的に見て、首都高と第二産業道路を介してのアクセスも時間的には有利である可能性があるのではないか。ルートや所要時間など、シミュレーションを検討してほしい。
- ⇒次回の委員会にシミュレーション結果等を報告したい。
- ・ 大宮公園内の移動についても議論できると良い。花博の事例ではスムーズな移動ができるように地下道路の整備も検討しているようだ。
 - ・ 産業道路の整備に関連した協議をさいたま市と進めているが、大宮 SBP を見込んでいない。ある程度協議が進んでおり、再検討すべきかどうかはこの検討委員会で判断していくのか。
- ⇒事業化する路線は、これまでの内容で進めたい。
- ・ 交通特性等の分析は、平常時だけではなくイベント時にも着目する必要がある。また、将来交通需要の見通しを定めて検討する必要がある。そのうえで、交通手段の分担率をどこまで下げたら交通処理能力など定量的な分析をお願いしたい。また、ピーク時の需要の分散方法についても重要論点であるため、引き続き議論したい。

(2) その他

- ・ 本日頂いたご意見を事務局にて取りまとめ後、委員のみなさまへ送付するので確認をお願いしたい。
- ・ 次回の委員会は令和7年6月頃に開催を予定している。詳細は決まり次第事務局より連絡する。

以上